

「松平直政書状を読む」

三宅 正浩
(福島大学人間発達文化学類)

○書状の時代—戦国～近世初期—

大名書状の役割

- ・情報把握・意思疎通のため、幕府や他家との連絡・情報交換
- ・家臣への仕置指示 ←参勤交代制：藩主が国元に不在
※仕置（しおき）……家中・領民の統治行為の意。

十七世紀半ば以降：政治組織・制度の整備 →書状の時代の終わり

大名書状は儀礼的なものを中心に

○史料としての大名書状

近世初期の政治・支配を解明するための重要な一次史料

←十七世紀半ば以降に多く作成されるようになる記録類（日記・法令集）が未成立

○松平直政（慶長6年（1601）～寛文6年（1666））

松江松平家の初代

直政の書状：家臣の家や他大名家に伝来

cf. 拙稿「松平直政論—西国における政治的位置—」

（『松江市史研究』3（『松江史歴史叢書』5）、松江史教育委員会、2012年）

：毛利秀就宛の直政書状を用いて西国における直政の政治的役割を分析 ex. ③

○書状を理解するために

- ・年代比定：多くの書状には年代が記されていない
- ・相手との関係：書状は差出者と宛先者の二人の世界
→第三者である我々には意味不明なことも

差出者と宛先者の関係、それぞれの所在地、背景となる状況、等々の確認が必要

①4月11日付大橋茂右衛門・堀尾但馬宛書状（大橋家文書）

前提：大橋茂右衛門・堀尾但馬→出雲入国（寛永15年（1638））以降

堀尾但馬：寛永15年召出、3000石、正保元年（1644）死去

大橋茂右衛門：寛永15年召出、6000石、承応3年（1654）死去

- ・「両上様」：家康・秀忠、秀忠・家光、家光・家綱 ※家綱誕生は寛永18年（1641）8月
- ・「日光へ公方様御社参」：家光の日光社参
- ・「惣国ききん（飢饉）」：
- ・「留守中」：直政の居所は江戸
- ・「神門・出東方々ふしん（普請）」：

②9月4日付大橋茂右衛門・堀尾但馬宛書状（大橋家文書）

- ・「長雨」：
- ・「当年仕置等大事」：
- ・「御そくゐ（即位）」：後光明天皇、寛永20年（1643）に即位。
※酒井忠勝・松平信綱が上使として上洛。
- ・「九州筑後筋高塩」：

○まとめ

寛永飢饉と松江藩

大橋茂右衛門・堀尾但馬の政治的位置

【参考：徳川家光の日光社参】

寛永19年（1642）

4/13江戸発→4/16日光着 4/20日光発→4/22江戸着

慶安元年（1648）

4/13江戸発→4/16日光着 4/21日光発→4/23江戸着

（「徳川家光の居所と行動」（藤井謙治編『近世前期政治的主要人物の居所と行動』京都大学人文科学研究所、1994年）より）

【参考：松平直政の参勤交代】

寛永18年（1641）

4/3松江発→4/23江戸着

寛永19年（1642）

5/28江戸発→6/23松江着

寛永20年（1643）

3/26松江発→4/18江戸着

正保元年（1644）

6/3江戸発→6/21松江着

（西島太郎「松江藩主の居所と行動—京極・松平期—」（『松江市史研究』1（『松江市歴史叢書』2）、松江史教育委員会、2010年）より）

【参考：寛永の飢饉】

江戸時代初期におこった大飢饉。1630年代の過重な年貢・夫役による農民の慢性的疲弊に島原の乱の影響が加わり、1640（寛永17）の牛疫病、'41の西日本の干ばつと虫害、東日本の冷害も重なって、同年から'42にかけて大凶作となり、5-10万人の餓死者がでたといわれる。（後略）
（『新版角川日本史辞典』角川書店、1996年）